

消 防 学 校 だ よ り

令和 3 年 6 月号

発行年月日 令和 3 年 6 月 30 日
発 行 宮 崎 県 消 防 学 校

初任科（普通救命講習 説明者訓練）

普通救命講習 説明者訓練を行いました。消防職員は、自らが救急法を熟知し実施できることはもちろんですが、住民に対してわかりやすく指導することも求められます。今後、救急法指導へ出向いた際には即戦力となれるよう説明者、受講者役に分かれ訓練しました。



初任科(ホース延長訓練)

消防活動訓練として、ホース延長訓練を実施しました。現場活動では多数のホースを延長する必要があり、ホースカーなどを有効に活用する事を訓練しました。



初任科(操法訓練)

基本的な消防活動の操作の方法を学ぶため、ポンプ車操法、小型ポンプ操法訓練を行いました。



初任科(NBC 災害訓練)

NBC 災害時に使用する陽圧式化学防護服などを着装し、特殊災害現場での活動を学びました。特に化学防護服は密閉された機密性の高い防護服であるため、体力と共に精神力が求められることを体験しました。



初任科(火災防ぎょ、検索訓練)

検索訓練を実施しました。火災現場において消火活動を的確に実施する事はもちろんですが、要救助者があれば、人命最優先となり検索活動を行う必要があります。ロープ信号、屋内進入、要救助者搬送要領などの訓練を実施しました。



初任科(非常呼集訓練)

非常呼集訓練を行いました。初任科入校以来はじめての実施で、学生も不意を突かれたようですが、我々消防は、もしもに備え、常に出動への心構えが必要です。各所属に戻る日に備え、日々、緊張感を持ち、残り約半分の初任科生活がつづきます。



初任科(プール清掃)

水難訓練をまえに、初任科生にて恒例のプール清掃を実施しました。プールの底に溜まりに溜まった1年間の汚れを、ホースやブラシを使いきれいにしました。茶色だったプールが、白線のよく分かるきれいな姿となりました。



初任科(体力錬成)

消防学校へ入校し約3ヶ月、初任科生は日々、消防人となるため体力錬成に励んでおります。入校当時より、体つきも持久力も向上しております。



初任科(消防救助操法)

救助操法を行いました。

消防機関が行う救助活動は、火災のみならず、交通救助、労働災害、風水害、水難事故等に際しても、国民の生命、身体に対する危険を排除するために行われていますが、国民生活の変化により災害の種類、内容も複雑多様化し、救助活動の内容も一層の高度化、専門化が必要となっています。まずは、基本が大切です。消防救助操法の基準に基づく動作をしっかりと身に付けさせます。



第 32 期救助科入校

6 月 21 日(月)、第 32 期救助科に県内 9 消防(局)本部から 14 名が入校しました。約 1 ヶ月の研修中、救助操法などの基礎的な技術とともに、山岳遭難救助、水難救助、特殊災害対応など専門的な教育訓練を実施していきます。



総代 城戸 優佑 (延岡市消防本部)

平 川 寛	(都城市消防局)
福 元 喜 大	(都城市消防局)
城 戸 優 佑	(延岡市消防本部)
宇和田 健 嗣	(延岡市消防本部)
小 松 昇 二 郎	(日向市消防本部)
西 森 隼 人	(日向市消防本部)
吉 田 望 思	(日南市消防本部)
小 山 博 也	(串間市消防本部)
緒 方 柳 介	(西都市消防本部)
寺 原 翔 太	(東児湯消防本部)
大 倉 広 志	(東児湯消防本部)
小 磯 寛 起	(西諸広域消防本部)
田 野 聖 也	(西諸広域消防本部)
藤 本 啓 貴	(西臼杵広域消防本部)

救助科 (校長講話)



学校長 燕 美知保

消防に課せられる使命の変遷として、多様化する任務についての話しや、本県の災害対応力、現状と喫緊の課題などを含め、消防職員の備えるべき職責と心構えについて講話されました。

救助科(消防救助操法)

活動の基本となる救助操法を実施しました。所属が違って、共通の認識を持ち訓練が実施できるのが操法です。様々な最新の技術修得はもちろん必要ですが、基本は忘れてはなりません。しっかりと復習しました。



救助科(電気事故対策)

九州電力送配電株式会社 宮崎配電事業所より 3 名の講師を迎え、電気設備、配電設備の基礎と、柱上での救出要領を実施しました。

電気事故の場合、まずは電力会社へ連絡し、十分な安全確保を行い、二次災害の発生がないように活動する必要があります。

訓練をとおり、安全への意識も高めてもらえればと思います。



救助科(身体管理と怪我防止)

エクセルフィットネスセンターの山田 義徳 氏より身体管理と怪我防止について講義とトレーニングを行っていただきました。

救助隊員は、強靱な体力、気力が求められますが、まずは怪我をしない体作りが必要であり、正しいトレーニングの方法など、生涯現役の身体作りを目指し講義を受けました。



救助科(エレベーター事故対策)

宮崎エレベーターサービス株式会社より、2名の講師を迎え、エレベーターの基本的知識と構造を学びました。

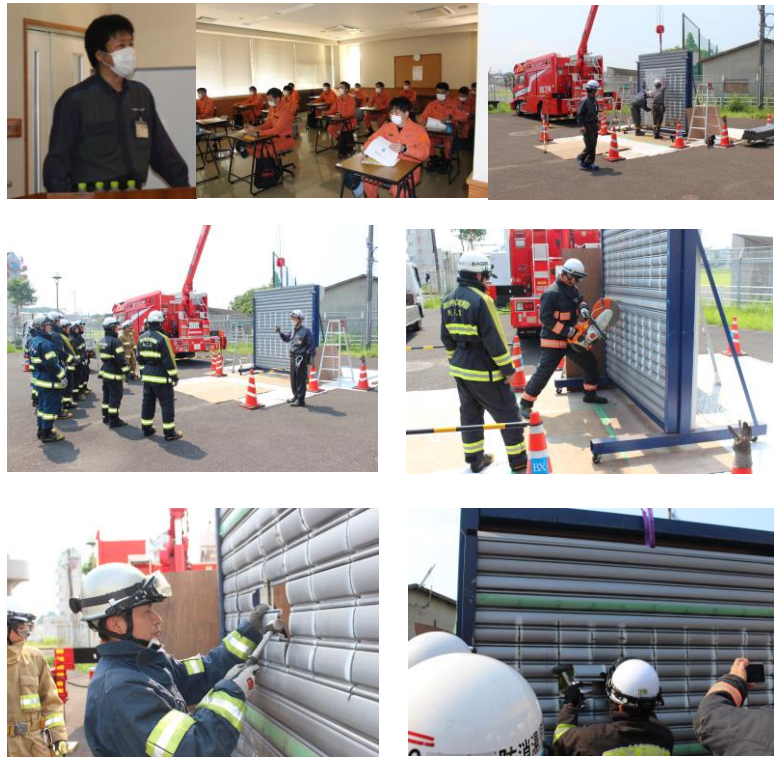
緊急対応する場合、正しい知識と技術が必要となりますが、各所属に存在するエレベーターは多種多様なものがあり、本校のエレベーター構造とは異なることもあるため、自らの所属する管内のエレベーターを確認してください。



救助科(シャッターの構造及び開放要領)

シャッターの構造と開放要領を、文化シャッターサービス株式会社より4名の講師に来ていただき、シャッターの種類、構造等の講義を受けました。

座学受講後は、実際に重量シャッターの切断、開口部の設定を行うとともに、水圧シャッターの開放要領も実施しました。



救助科(電気自動車対策)

日産サティオ宮崎より電気自動車に対する事故時の対応を講義していただきました。

今後、電気自動車や水素エンジンの自動車など、内燃機関ではない自動車が多く普及していきませんが、有事の際、安全に迅速に人命救助が行える様に構造を含め、電気自動車について学びました。



救助科(玄関ドアの構造と開放要領)

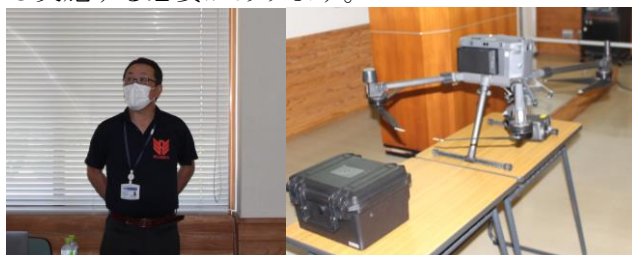
玄関ドアの構造と開放要領を、株式会社 LIXIL 並びに AGC グラスプロダクション株式会社より講師に来ていただき実施しました。

実際に玄関ドアをエンジンカッターで切断しての鍵の開放や、普通ガラス、強化ガラス、合わせガラスの破壊を行いました。



救助科(ドローン活用)

ライフクリエイト宮崎より講師に来ていただき、ドローンに関する法令や、機体、暗視カメラ等の紹介を含め、実機での訓練を行いました。災害時のドローン活用は、県内各消防(局)本部でも始まっており効果をあげていると思いますが、飛んでいる物は落ちることもありますので、飛行申請等の法令を遵守し実施する必要があります。



救助科(外国人への災害対応)

県オールみやざき営業課所属の国際交流員 2 名に講師に来ていただき、外国人への緊急時の対応として、英語と韓国語対応及び、それぞれの国の消防行政について話を聞きました。緊急時の外国人对応には救急ボイストラの使用や、通訳者へ繋ぐなどの対応がありますが、ファーストコンタクトは人対人となりますのでジェスチャーを含め学習しました。



救助科(外傷アプローチ・交通救助)

都城市消防局特別救助隊より 6 名(川添 章弘 司令補、大西 洋幸 司令補、大塚 聖 消防士長、荒川 幸太 消防士長、清水 修平 消防士長、濱田 翔 消防士)の講師に来て頂き、外傷アプローチと交通救助の講義及び訓練を実施していただきました。

外傷アプローチでは、大塚 聖 消防士長より、傷病者を安全、確実、迅速に救助することはもちろんであるが、傷病者の容体にあわせ、その予後まで考慮した活動が求められると講義を受けた後、ブースに別れ車外への搬出要領を実施しました。

交通救助訓練では、車のガラスの構造や破壊方法、現場で事故車両に近づく際の注意点、車両の開放要領などを行った後、想定訓練を行い充実した授業を行っていただきました。丸一日の訓練ありがとうございました。



7 月の主な行事

7 月 7 日(水)・8 日(木)・9 日(金)

7 月 16 日(金)

初任科県外研修(屋久島登山)

救助科修了

宮崎県消防学校

担 当:伊豆元 優一(いずもと ゆういち)

電 話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp